

インターネットがどこまで普及しようとも
どこまで便利になろうとも、新聞や雑誌につ
まりペーパーメディアが、人々に必要のない
ものとなることはないだろう。と私は主張
する。

インターネットの本格的な普及は90年代か
ら始まり、今やインターネットに接続してい
ないパソコンは稀であり、日本では携帯電話
からもインターネットを閲覧することができ
る。その通信速度も倍々に増えつつあり、こ
の10年間でインターネットは飛躍的に便利にな
ったものの一つであるだろう。対し、新聞や雑
誌などのペーパーメディアはどうだろう。一
世紀ほど前からほとんど道を遠ざけたことな
く、存在しつづけている。確かに編集段階で
はパソコンを使ったり、カラー広告の割合が
増えたりと、一部では変化も目撃されている。
しかし、紙にインクで文字情報を記し、人々
がその本を手に取り、7読むというスタイルは付
く愛おしいものがある。

安易に言い切るのはあるが、ペーパーメディア
は既に今の段階で完成型とも言うべきレヴェ
ルに達しており、これ以上の変化は「改善」
にすぎない。兼ねないものである。

人類の歴史は文化の積み重ねであり、例え
人類が、もし非効率であり、たとえても、脈々
と前世代から受け継ぎ、成熟させてきた自
らの文化を、そう簡単に放棄するべきではな
い。そうは思わない。インターネットと違い、
物質世界に存在するペーパーメディアは、人
間の生活と強く結びついていったのである。朝
起きたら、コーヒーを飲みながら、新聞を開
いてチェックする……これも生活の一部であ
る。

したがって、私は自分の経験から考えても
自分たちの生活からペーパーメディアが無く
なること、自分たちがペーパーメディアを不
必要とすることなど、ありえないことだと思
っている。むしろ、私はこのペーパーメディア
が今後も次世代に受け継がれるべきだと思